

1. 科目名 (単位数)	教育保健学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5511 EDMP5371
2. 授業担当教員	宋 暁鈞		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習・討論			
6. 履修条件・他科目との関係	学部での開講科目「学校保健学」に準ずる科目の学修を前提とする			
7. 講義概要	<p>成長期にある児童生徒等の健康の保持増進とそれを支える教職員や家族、地域住民の組織的健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資する学校保健安全法に準拠した施策を行うことを目的としている。学校保健は、近年特に地域環境との連携を重んじ、社会教育や国際教育保健とも連動した教育保健活動を包括する。博士課程の鍵概念「人間教育」への保健学的アプローチである。</p> <p>人間の生涯にわたるよりよい「命の存続」とは何かを問い、看護学や公衆衛生学、学校保健学などの諸科学を基盤にした、「教育と医学」の融合を図る。又人間の命の存続をそのライフステージ毎にその特性を考えると共に「命」そのものを育む「環境」を内面（内部環境）、学校環境、家庭環境、地域環境、国際環境さらには、人間生態系としてのとらえ方に発展させる。それぞれのライフ・ステージ毎の心身の健康状態が存在していることを認識することも重要な課題である。人間の命とそれを育む環境の保持増進を図る目的で存在する各種諸法令を理解し、積極的に自らの心身状態への自己コントロールや生活環境への意識改革をすることも重要な課題である。</p> <p>基礎科学との繋がりとしては、昨今の「新型コロナウイルス (COVID-19)」感染症対策には、免疫学・感染症学・病原微生物学的接近が必要であろうし、自然災害・危機管理には、広義の人間一生態系の視点が必要であろう。</p> <p>学校保健安全法・学校教育法・教育基本法に則り、保健教育（保健学習・保健指導）と保健管理・地域保健組織活動を総合して実践される「学校保健学」の理論と実践が基盤となるが、領域の異なる専門家集団による「人間教育学」としての「教育保健学」を院生の研究課題と融合して、展開を図りたい。</p>			
8. 学習目標	<p>①人間の生涯にわたるよりよい「命の存続」とは何かを問い、看護学や公衆衛生学、学校保健学などの諸科学を基盤にした、「教育と医学」の融合を図る。</p> <p>②人間の命の存続をライフステージ毎にその特性を考えると共に「命」そのものを育む「環境」を内面（内部環境）、学校・家庭・地域、国・国際さらには、人間生態系としての教育保健をとらえる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・領域の異なる専門家集団による「人間教育学」としての「教育保健学」を院生の研究課題と融合して、展開を図り、レポート提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】講義内容に合わせて適宜資料を配布し、文献を紹介する。</p> <p>【参考書】鈴木庄亮ほか監修「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂、2020。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価 各教員からの課題を提出 15 回の教員別完結型評価</p> <p>○評定の方法 出席状況と出席時の授業への参加意識・行動 課題提出状況等を総合評価</p>			
12. 受講生へのメッセージ	人間の健康を教育現象として把握する専門領域の多様性を知り、各自の教育観・保健観・環境観を構築して下さい。またそれぞれが取り組む修士課程の研究課題が教育保健学とどのようにつながり、どう貢献するかについても討論してほしい。			
13. オフィスアワー	授業時に周知する			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション：教育保健学とは？ 命を護るための諸科学の集大成であることを知る			
	<p>【学習の目標】教育保健学とは？ 自らの心身状態と生活環境（物的・人的）及び日常の生活行動様式との関係を認識することから出発する。</p> <p>【学習の内容】①学校における教育課程、地域・家庭における人々の生活様式、生活習慣、行動様式、地域文化、気象条件・地理的諸条件等、多様な人間の生命生存に係る諸要因を調べ、発表・討論をする。②留学生の場合は、同じ国同士協力しながら、家庭・地域、国の人文地理学的諸特性を調べ、特に成長過程にある子どもたちの生命・生活・生存に係る諸問題を探求する。方法は、文化人類学的方法や生態学的（エコロジック的）方法論を用いる。</p> <p>【キーワード】①個体—個体集団—文化・社会—国際関係という系統的・連続的に生命を眺める。系統的連続的生命現象 ②その生命を護るための環境諸因子も又、生物的物理的化學的社會文化的諸因子との相互作用としてとらえる。 ③教育現象として、これらをどうとらえるか、討論し、領域の内的構造化を図る。</p> <p>【学習の課題】①②③のとらえ方に時間因子を軸とした考察を行う。</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】教育現象をどうとらえるか？生命を存続させるための環境諸因子と生命に危害を与え、死滅させる有害環境を医学生物学的、社会文化的、物理化學的諸因子を危機管理対策も含めて十分に考慮する。院生と教員は自由に思考し、関連文献も提示する。既存に組織や分化科学に捕らわれず、自由な発想を提示する。</p>			
2. テーマ	学校環境衛生基準の策定をめぐって			
	<p>【学習の目標】学校環境衛生基準とは何か、WHOの環境衛生の定義を知ろう。ここから見えてくるものは何か？</p> <p>【学習の内容】学校環境衛生基準が制定される過程は、昭和 33 年の「学校保健法」の制定から昭和 39 年に「学校環境衛生の基準について」が通知され、以降その時代のニーズにより改訂が行われ、平成 30 年に現行法が施行された。</p> <p>【キーワード】学校保健法、学校教育法、学校給食法、学校環境衛生基準</p> <p>【学習の課題】時代のニーズとは何か、何が追加改訂されたのか等を理解する。</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】学校環境衛生活動と関係法令を体系的に理解する。</p>			

3 . テ ー マ	教育工学・人間工学の立場から、子どもを衛る—子どもの視機能の発達と人間工学—
【学習の目標】	自分の視力を護りながら、IT 関連教育機器を使用する能力を身に付ける。
【学習の内容】	VTR 学習教材の有効性を実証する実験を紹介する。 IT 機器の導入によって、学習教材がより体感しやすくなると共に、具体的経験とは異なる映像学習の危機を知る—
【キーワード】	情報化社会、教育機器の開発、人間の生物学的適応能力発達ゆがみ、近代化と近視化傾向
【学習の課題】	情報機器の導入、教育工学・人間工学の発展の危機管理
【参考文献】	修論・博論・卒論の紹介
【学習する上での留意点】	自ら、研究計画を立て、現地での測定を試みよう。
4 . テ ー マ	測ることの大切さ、呼吸・血圧・脈拍・体温を形成するメカニズム・基準値及び演習
【学習の目標】	教育保健学とは、児童生徒は学習環境での健康を保護し守っていくという意味である。そのために、人体の構造と機能の基本知識、特に身体特有な生命徴候（バイタルサイン）の測定方法が適当に理解する必要性であり、その測定は健康の保持増進のために不可欠な方法である。呼吸・血圧・脈拍を形成するメカニズムを理解しながら、簡易な身体測定機械を紹介し、演習を行う。
【学習の内容】	身体の生理的呼吸頻度及び体温値、WHO（世界衛生機構）から定められた血圧基準値、脈拍の変化頻度と健康との関連性について究明する。身体の測定について、バイタルサインの特徴を理解しながら、測定（行動）・チェックを常に意識し、熟練な測る方法の養成を図る。
【キーワード】	呼吸、血圧、脈拍、体温、測る方法と基準値。
【学習の課題】	教育・医学、特に健康影響には様々な分野が絡み合っているため、健康問題をともに深め、考察しよう。
【参考文献】	配布資料
【学習する上での留意点】	健康を関与している知識について、身の回り、家庭内、地域社会、日本国そして世界各国へと視野を広げ、自身がどう関わっているか、守っていくかを理解する。
5 . テ ー マ	教室内環境測定から、子どもたちの学習意欲を知る
【学習の目標】	温度を測ろう。温湿度・気流・輻射熱等、総合的にみた環境条件を探る。 教室内のきめ細かな温度分布、光の分布、空気の汚染、換気・密閉性、窓からの光や景観。勉強のしやすさを探ろう。
【学習の内容】	まず教室内の環境を測ろう。そして測定装置、方法の原理等を理解する。
【キーワード】	温熱環境、換気率、騒音、照度、まぶしさ
【学習の課題】	環境測定を通して住まい易さとは何か、学習意欲に関わる因子を探る。
【参考文献】	配布資料
【学習する上での留意点】	学校環境衛生基準値を事前学習し、教室内の環境測定から室内環境を改善する対策を整理する。
6 . テ ー マ	学校における危機管理の対象となる事項(学校保健領域や学校安全領域)における危機管理①
【学習の目標】	事件・事故の発生を未然に防ぐことを中心とした危機管理について学ぶ。
【学習の内容】	養護教諭は、学校安全の概念が拡大されたことを共通理解し、学校経営の基盤となる学校保健計画並びに保健室経営に組み込むことが求められていることを踏まえ、危険の発生を予知し、未然に防止したり、早期に危険を発見したりその危険を確実に除去することを重点に考察する。
【キーワード】	リスク・マネジメント、クライシスマネジメント、未然防止、予知・予測
【学習の課題】	実態に見合った「危険等発生時対処要項」の作成に専門的な立場で参画し、卓上訓練やミュレーション訓練について考える。また、災害や事件・事故発生時における心のケアの基本的理解や危機発生時の健康観察の方法について平常時から準備し、全職員と研修を深めていく必要性を考察する。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	学校経営や保健室経営に地域性があることを踏まえる。
7 . テ ー マ	学校における危機管理の対象となる事項(学校保健領域や学校安全領域)における危機管理②
【学習の目標】	事件・事故が万が一発生した場合の対策を講じる危機管理を学ぶ。
【学習の内容】	事故等により心理的外傷その他の心身の健康に対する影響をうけた児童生徒等その他の関係者の心身の健康回復させるために必要な支援を行うこととされ震災の体験を通して考察をする。
【キーワード】	再発防止、危機管理体制、危機判断、危機介入、危険等発生時対処
【学習の課題】	学校内外の連携を強化し平常時から組織的な体制整備を図ることや児相生徒等が自他危険予測・危険回避の能力を身につけることができるようにする観点から、発達の段階を踏まえつつ、学校教育活動全体で取り組むことが重要である。このことを実体験を通して考察をする。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	学校における危機管理は児童生徒等ならびに教職員の生命や心身、学校組織などに生じる危機的状況に対処できることを考える。
8 . テ ー マ	学級閉鎖・学校閉鎖—子ども達を感染症から守る①：病原微生物とそれらに起因する感染症の概説
【学習の目標】	病原微生物の種類と性状、感染源・感染経路・易感染性宿主との感染症が成立するための要因を理解する。
【学習の内容】	感染と発症、感染の経過、内因性感染と外因性感染、感染症が成立の3要素。病原体の攻撃因子と宿主側の抵抗因子との相関関係を把握する。
【キーワード】	ウイルス、細菌、原虫、汚染・感染、感染症、水平感染・垂直感染、非特異的防御因子・特異的防御因子
【学習の課題】	病原微生物と感染症、感染発症指数について理解する。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	ウイルスは、他の微生物と異なり、生きた細胞に侵入しないと増殖(複製)できない感染性微生物である。 ウイルスの種類によっては、感染した細胞を殺さずにその機能を変えてしまうものがある。あるものは細胞に感染して、正常な細胞分裂ができないようにし、癌化させてしまうことがある。
9 . テ ー マ	学級閉鎖・学校閉鎖—子ども達を感染症から守る②：感染症の診断と治療
【学習の目標】	感染症診断の流れ(感染症診断の成立か否か・感染部位の特定、検査材料の採取、病原体の確定、治療開始など)を実践できるよう理解する。
【学習の内容】	感染症を診断する根拠(随伴症状と血液の検査：白血球、赤沈、CRP)、感染症の前駆症状、随伴症状(発熱、下痢、腹

	<p>痛、発疹、リンパ節腫脹等)、及び感染部位の特定する方法と検査、感染症の治療法などについて理解を深める。</p> <p>【キーワード】 感染症の判明、前駆症状、随伴症状、血液の検査、感染部位の特定、感染症の治療法</p> <p>【学習の課題】 感染症の診断と治療方法が適切に理解してから把握する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 感染症診断の根拠とその後の治療法についての正しい認識を深める。</p>
10. テーマ	<p>学級閉鎖・学校閉鎖—子ども達を感染症から守る③：感染性食中毒・日和見感染症</p> <p>【学習の目標】 有毒・有害な物質が食品や飲料水の中に混入し、それを飲み食いしたことによって起こる健康障害を阻止する方法（感染源・感染経路の遮断、消毒・滅菌など）を実践できるよう理解する。</p> <p>【学習の内容】 食中毒の原因物質と発生機序、食中毒の感染防止に不可欠な滅菌・殺菌・消毒とその方法、食中毒の予防について理解を深める。日和見感染症の特徴を理解する。</p> <p>【キーワード】 細菌性食中毒・ウイルス性食中毒、滅菌、殺菌、消毒</p> <p>【学習の課題】 感染性食中毒の予防対策が適切に実践・指導できる知識と技能を把握する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 感染性食中毒の感染の成立と感染様式の関係についての正しい認識を深める。</p>
11. テーマ	<p>学級閉鎖・学校閉鎖—子ども達を感染症から守る④：性感染症・人畜共通感染症</p> <p>【学習の目標】 性感染症や人畜共通感染症を阻止する方法（児童生徒に関する健康教育、感染源・感染経路の遮断、ワクチン接種など）を実践できるよう理解する。</p> <p>【学習の内容】 接触感染・飛沫感染防止に不可欠な滅菌・殺菌・消毒とその方法、性感染症と人畜共通感染症の予防について理解を深める。</p> <p>【キーワード】 世界中蔓延する性感染症、人獣共通感染症、感染防御抗体、ウイルスの抗原変異、ヒト—ヒト感染（伝染病）、動物—ヒト感染、感染経路、感染防止</p> <p>【学習の課題】 感染症の予防対策が適切に実践・指導できる知識と技能を把握する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 性感染症と人畜共通感染症の感染の成立と感染様式の関係についての正しい認識を深める。</p>
12. テーマ	<p>児童生徒における疾病予防と健康管理①： 胎児・乳幼児の感染防御機構及び胎児・乳幼児・学童の主な感染症；世界感染症</p> <p>【学習の目標】 胎児・乳幼児の感染防御機構及び胎児期・乳幼児期及び学童期における主な感染症とその予防法について理解する。世界の感染症の分類・感染経路・感染防御について理解する。</p> <p>【学習の内容】 胎児期に経胎盤感染する風疹ウイルスや梅毒トレポネーマ等、胎児・乳幼児の受動免疫、ワクチンの接種時期（乳幼児期の水痘・帯状疱疹ウイルス、百日咳菌など、学童期のヒトパピローマウイルスなど）、効果とリスクを把握する。</p> <p>【キーワード】 受動免疫（S-IgAの腸管内での作用、IgGの胎盤通過性と血中での機能）、胎盤の機能と経胎盤感染、先天性風疹症候群、先天梅毒</p> <p>【学習の課題】 ①胎児・乳幼児の感染防御機構、母親から胎児へ感染する病原体、乳幼児期・学童期に接種するワクチン等について理解を深める。②世界感染症の分類と特徴についてその意義を理解する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 乳幼児期に特徴的な受動免疫による感染防御機構と能動免疫による感染防御機構の違いについて理解する。感染症法の対象となる感染症についてその意義を理解する。</p>
13. テーマ	<p>児童生徒における疾病予防と健康管理②：身体的感染防御機序、ワクチン・免疫治療</p> <p>【学習の目標】 感染性疾病に対応する生体の有利な防御反応：免疫反応（自然免疫・獲得免疫）、ワクチン接種と受動免疫、免疫治療方法を実践できるよう理解する。</p> <p>【学習の内容】 身体的感染防御機序：非特異的免疫反応と特異的免疫反応の発生機序、ワクチンの種類と効果・リスク及び免疫が成立しない病原微生物について理解を深める。</p> <p>【キーワード】 自然免疫・獲得免疫、ワクチン接種、免疫治療</p> <p>【学習の課題】 免疫力の増進対策が適切に実践・指導できる知識と技能を把握する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 感染性疾病に対応する生体の有利な防御反応（免疫反応）についての正しい認識を深める。</p>
14. テーマ	<p>学習障害児への寄り添い。ギフテッドチャイルドを集団の中で、どう育てるか？</p> <p>【学習の目標】 学習障害（LD）やギフテッドチャイルドの特徴や子どもに見られるつまずき、特有の問題点及び生きづらさについて理解し、個や学級に対する具体的な支援策を見出す。</p> <p>【学習の内容】 学習障害児やギフテッドチャイルドの定義と特徴及び学級における具体的な支援や学習障害児やギフテッドチャイルドにおける内的環境、心理背景からとらえる自己肯定感の確立について理解する。</p> <p>【キーワード】 発達障害、自閉症スペクトラム、自己肯定感、チーム学校、コンサルテーション</p> <p>【学習の課題】 学習障害児とギフテッドチャイルドの違いを検討する。</p> <p>【参考文献】 配付資料</p> <p>【学習する上での留意点】 学習障害（LD）やギフテッドチャイルドの自己肯定感の確立を探っていく。</p>
15. テーマ	<p>まとめ：教育保健学のこれまでとこれから—教育過程にある子どもの成長を護る—</p> <p>【学習の目標】 学習目標は、学習者・教員の相互作用の中で創生される。 班別・グループ別、又は個別で学習目標を定め未来に向けて、創生しよう。</p> <p>【学習の内容】 ①今まで学び、探求したこと振り返りと整理する。 ②担当教員や先輩（TA）は、今何を考え、未来に向かって歩みだそうとしているか？</p> <p>【キーワード】 沈黙・覚醒・内省・瞑想・森林・海洋・景観・芸術・楽しみ</p> <p>【学習の課題】 15回の学びや探求を子どものよりよい生命の発現にどう生かすか？</p> <p>【参考文献】 各自の学びや研究の成果のまとめ、先行研究による資料</p> <p>【学習する上での留意点】 最後に授業は、これからの出発点となる。何も残らなかった院生は、今日をどう生きるかを考えてみよう。</p>